

第 15 回

ネパール口唇口蓋裂医療チーム派遣事業

完了報告書



2010年11月20日(土)～12月5日(日)

ネパール カブレ郡 シーア記念病院



目 次

1. 事業概要

- (1) 事業名
- (2) 事業地
- (3) 事業期間
- (4) 事業費
- (5) 事業目標
- (6) 事業成果

2. 活動報告／評価

3. 予算／決算報告

4. 事業における共同・協力団体一覧

5. 患者関連資料

- (1) 患者一覧
- (2) 居住地一覧(地図)
- (3) 術後アンケート結果

添付資料

- (1) 参加者アンケート結果
- (2) 収支報告書

1. 事業概要

(1) 事業名: 第 15 回ネパール口唇口蓋裂医療チーム派遣事業
Cleft Lip and Palate Surgery Project (CLPP)

(2) 事業地: ネパール連邦民主共和国 カブレパランチョーク郡バネパ市
手術実施はシーア記念病院 (Scheer Memorial Hospital)

(3) 事業期間: 2010 年 4 月 1 日～2011 年 3 月 31 日 (派遣準備及び報告・広報等の事後活動含む)
医療チーム派遣期間

- ・ 全日程 : 2010 年 11 月 20 日～12 月 5 日
- ・ 事前準備、及び術後処置・事後処理担当者 : 2010 年 11 月 19 日～12 月 8 日

(4) 事業費: 17,547,578 円

【自己資金】プロジェクト指定寄付金	10,658,252 円
物品提供	4,810,326 円
【助成金】社団法人全日本冠婚葬祭互助協会 第 11 回社会貢献基金助成	800,000 円
積水ハウス株式会社	639,500 円
積水ハウスマッチングプログラムの会	639,500 円

(5) 事業目標:

1. 口唇口蓋裂を治療することで患者の健康と社会生活を向上させ、人間としての尊厳を回復する
2. 医療技術交流により、現地医療従事者による口唇口蓋裂治療の向上に貢献する
3. 現地の病院の医療機器の整備技術向上に貢献する
4. 事業を通じ、日本社会に対し開発途上国における国際支援活動に関する啓発をおこなう

(6) 事業成果:

上述の事業目標に基づき、以下の事業成果を設定した。

- 1-1. 形成外科医、麻酔科医、看護師(手術室・病棟)、その他スタッフからなる医療チームを派遣する
- 1-2. 事業に賛同する市民及び企業等から必要な資金支援を得る
- 1-3. 50 人の口唇口蓋裂患者が、無料で形成手術と術後ケアを受ける
- 1-4. 手術を受けた患者全員とその付き添いの家族が、看護師から栄養・衛生指導を受ける
- 2-1. 2 人以上のネパール人医師が口唇口蓋裂手術に参加する
- 2-2. ネパール人医療スタッフ(手術室・病棟勤務)が日本人医療スタッフと協力して患者の手術及び術後ケアを行う
- 2-3. ネパール人医師と日本人医師との技術交流を実施する
- 3-1. 日本人臨床工学技士が、故障・整備不良等により使用不可となっている医療機器をネパール人技士と協働して修理する
- 3-2. 日本人臨床工学技士が、ネパール人技士に医療機器の整備方法の指導を行う
- 4-1. 事業報告書を作成して公開する
- 4-2. 協賛企業、教育機関、支援団体への事業報告を実施する
- 4-3. 事業の参加者が、開発途上国における保健衛生・医療支援活動について学ぶ機会を得る

2. 活動報告／評価

設定された事業成果に基づき、本事業の活動内容を以下に詳記し、合わせて項目ごとに評価を行う。

1-1. 形成外科医、麻酔科医、看護師(手術室・病棟)、その他スタッフからなる医療チームを派遣する
派遣した医療チーム構成の詳細は以下の通りである。

形成外科医	7 名	臨床工学技士	1 名	ADRA スタッフ	4 名
麻酔科医	7 名	薬剤師	1 名	ボランティア	2 名
看護師(手術室・病棟)	15 名	栄養士	1 名		

- 前半派遣: 11 月 20 日～28 日
- 後半派遣: 11 月 27 日～12 月 5 日
- 全日程派遣: 11 月 20 日～12 月 5 日

- 事前準備、及び術後処置・事後処理担当者派遣: 11 月 19 日～12 月 8 日

準備段階において、医療従事者が所属する医療機関からの派遣許可のもと、形成外科医・麻酔科医・看護師・薬剤師・臨床工学技士、医療チーム滞在中の食事を担当する栄養士の参加を得た。看護師については、ADRA ホームページ上での募集を見て応募した方が例年に比べて多く見られた。

ADRA Japan スタッフは医療チーム派遣の 10 日前に現地入りし、受け入れ準備を行なった。医療コーディネーターと看護師の一部は医療チーム派遣の前日に現地入りし、手術室や病棟の設営などを行なった。医療チームは到着後、手術を行なう病院近辺のホテルに滞在し、勤務(看護師は昼・夜の 2 交代制)を開始した。

全手術終了後、形成外科医 2 名、看護師 3 名、医療コーディネーター 1 名、ADRA Japan スタッフ 2 名を残し、チームは帰国した。残った医療従事者とネパール人スタッフは、事業の後半に手術を受けたためチーム帰国後も入院していた患者に対して術後処置を行なった。また、撤収作業やデータの整理、反省会等も行なった。

【評価】

形成外科医及び麻酔医は、常に 3 つの手術台で平行して手術を行なうのに十分な人数が確保された。看護師(手術室看護師 5 名、病棟看護師 10 名)も、各々の業務を支障なく遂行するために十分な人数が確保された。薬剤師、臨床工学技士、栄養士についても、各業務を行なうのに充分であった。参加した医療従事者は、いずれも日本(麻酔科医 1 名についてはアメリカ)において一定以上の臨床経験を積んでおり、ネパールの口唇口蓋裂患者に適切な治療を行うための技能を持ち合わせていた。

ADRA ホームページにおける募集告知に応募した看護師のうち、実際に本年度の事業に参加したのは 3 名であった。本事業を 15 年間に渡り継続してきたこと、並びにホームページや機関紙を通じた広報・啓発活動が浸透しつつあることが伺えた。

1-2. 事業に賛同する市民及び企業等から必要な資金支援を得る

事業に賛同する個人及び企業から、物品提供を含めて 4,810,326 円の支援を得た。

資金は、インターネットや当団体の会報等の媒体を利用して寄付を募ったほか、(社)全日本冠婚葬祭互助協会社会貢献基金、積水ハウス(株)、積水ハウスマッチングプログラムの会から助成金を得た。医薬品類は、ネパールで入手困難なものを日本で調達した。この際、購入による調達に加え、医療関連企業に対し事業の趣旨を説明し提供を求めた。

※ 収支については、別途添付の収支報告書を参照のこと。

※ 提供を受けた物品の詳細については、「4. 事業における共同・協力団体一覧」の項を参照のこと。

【評価】

資金及び資材は、事業を実施するのに十分な額と量が確保され、支障なく事業が運営された。

1-3. 50 人の口唇口蓋裂患者が、無料で形成手術と術後ケアを受ける

交通インフラの乏しいネパールでは、最寄りの幹線道路まで数日かけて徒歩で移動しなければならない集落も多い。そのような僻地に住む患者に対し、手術による治療が可能であること、無料手術を受ける機会があることを知らせるため、シーア記念病院の事業担当者をネパール各地に派遣した。患者は術前診察日までにシーア記念病院があるバネパ市に移動し、手術日までは病院近辺の宿泊施設に滞在した。退院後も、医師からの帰宅許可が下りるまでは同じ宿泊施設に続けて滞在した。現金をほとんど持たない患者が多いため、患者と付き添い家族の移動費用と、食費を含む滞在費を ADRA の事業費用で賄った。

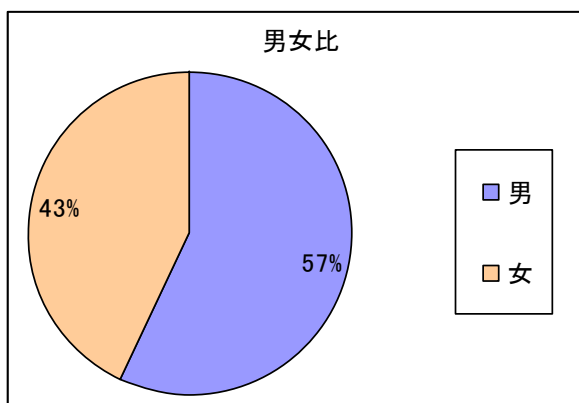
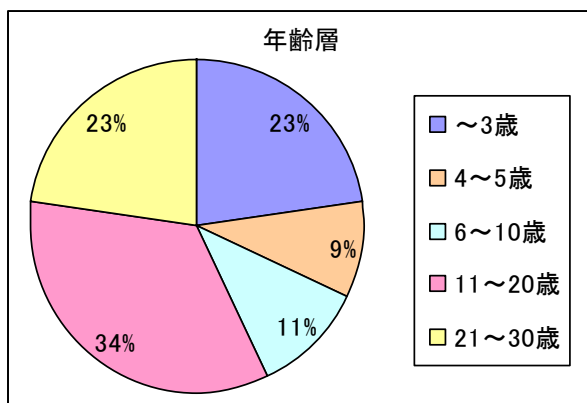
42 名の口唇口蓋裂患者に形成手術及び術後処置を行なった。口唇口蓋裂以外に、小耳症 1 名、副耳 1 名の形成手術及び術後処置を行なった。また、カンチ小児病院における出張手術にて尿道下裂患者 1 名を、イサン・ナーシング・ホームにおける出張手術にて尿道下裂 1 名、斜顔面裂 1 名の手術を行なった。

形成手術と術後ケアを受けた患者の症例の内訳は以下の通りである。

口唇口蓋裂	42 名	小耳症・副耳	2 名
尿道下裂	2 名	斜顔面裂	1 名

- シーア記念病院における術前診察受診患者数: 53 名
- 総手術患者数: 47 名(シーア記念病院における手術患者数: 44 名)
- 総手術件数: 49 件(シーア記念病院における手術件数: 46 件。2 名の口蓋裂患者に対して、tongue flap という手法を用い、2 度手術を行なっているため、手術数が上記の手術患者数より 2 件多くなっている)

なおシーア記念病院にて手術を実施した患者の年齢層及び性別比は以下の通りである。



年齢層	人数
～3歳	10
4～5歳	4
6～10歳	5
11～20歳	15
21～30歳	10

男女比	人数
男	25
女	19

最年少は生後 11 ヶ月の女兒(口唇裂)、最年長は 30 歳の男女 2 名(いずれも口唇裂)であった。なお、術前診察の際に手術を見送った患者、及び手術室への入室後に手術中止となった患者の計 9 名については、統計から除外している。平均年齢は 12.61 歳であった(男性:12.72 歳、女性:12.47 歳)。

【評価】

手術を行なった人数は合計 47 名であり、当初の目標数である 50 名からは 3 名不足した。口唇口蓋裂患者のみで考えると 8 名の不足であった(シーア記念病院における手術に限る)。シーア記念病院には 53 名の患者が来院したが、このうち術前診察において 7 名が手術不適と判断され、手術を行なわなかった。手術中止の理由として、年齢が若過ぎる、低体重、心雑音、結核感染の疑いなどがあつた。また、2 名の患者については、手術計画を作成した後に体調不良が判明し、手術をキャンセルした。これらの理由により、目標未達となった。

患者の低年齢化の傾向は 2003 年度事業の頃から見られており、昨年度(2009 年度)の事業においては、全患者のうち 7 割が 10 歳以下の小児患者であった。これに対し、今回は近年では珍しく 20 代及び 30 代の患者が全体の 4 分の 1 弱を占めるに至つた。考えられる一つの要因として、昨年までは患者への手術機会の告知を現地支部である ADRA Nepal のスタッフが行なつていたが、今回は事業提携をしているシーア記念病院のスタッフが担当したことがある。これにより、昨年までとは異なる連絡・通信手段を活用し、これまで到達することのできなかった地域・集落への手術の告知が可能となったため、その地域で手術を受けられずにいた 20 代、30 代の患者が本事業による手術の機会を知るに及んだのではないかと思われる。

1-4. 手術を受けた患者全員とその付き添いの家族が、看護師から栄養・衛生指導を受ける

術前診察の際、患者と付き添い家族は日本人及びネパール人看護師から歯磨き指導を受けた。指導に際しては、歯型模型なども活用して歯磨きの方法を伝えた。また、手術後の病棟ケアにおいて、シリンジを用いた口腔内の洗浄やうがい薬を使つたうがいの方法などを、実践を交えながら指導した。

【評価】

例年に比べて患者の年齢層が高かつたこともあり、歯みがきや食後のうがいなどの指導に対する理解は総じて良好であつた。事業の中盤には患者の付き添い家族のみならず、数名の患者については自らうがい薬の入つたコップを食事の前に用意するようになった。これは手術を受けた口腔内を清潔に保たなければならないという意識が、患者及び付き添い家族に芽生えたためと考えることができ、指導の効果は充分であつたと思われる。

なお手術後の食事管理において、口蓋裂患者に対しては固形物をしばらく摂取させないこと等の指導が行われたが、栄養学的な側面からの指導は特に行われなかつた。

2-1. 2 人以上のネパール人医師が口唇口蓋裂手術に参加する

ネパール人医師が口唇口蓋裂患者の手術に参加することはなかつたが、医療チーム派遣期間を通じてシーア記念病院に勤務するネパール人外科医、及びシーア記念病院の手術室にて実習中であつたネパール人看護師が手術室の見学に訪れた。また小耳症患者の手術の際には、同じくシーア記念病院に勤務するフィリピン人内科医が手術を見学した。

【評価】

ネパール人医師の手術への参加がなかったことから、共同で手術を実施することによる技術交流を図ることはできなかった。一方、シーア記念病院の内科及び外科から手術見学に訪れる医師は多く、現地で診療にあたる医師が参考として日本人形成外科医の手術技法や治療の方法を学ぶという観点からは、多少の貢献をしたものとする。来年度以降、どのような形態でネパール人医師の手術への参加を呼びかけるか、どのような協力体制を整備できるかは検討すべき課題である。

2-2. ネパール人医療スタッフ(手術室・病棟勤務)が日本人医療スタッフと協力して患者の手術及び術後ケアを行う

日本人医師及び看護師は、19名のネパール人医療スタッフ(手術室 8名、病棟 11名)と協力し、手術及び患者の術後ケアを行なった。また、小児患者の術前診察や投薬などに関しては、シーア記念病院に勤務する外国人小児科医の全面的な協力を得た。

口蓋裂患者は2~5日間、口唇裂患者は1~4日間程度、術後に入院して処置を受けた。退院後は近くの宿泊施設に滞在し、消毒等の処置のため毎朝通院した。抜糸が必要な患者は手術から7日程度を目処に抜糸を受け、帰宅した。口蓋裂患者は抜糸が不要のため、状態が安定した患者から順次帰宅した。

【評価】

手術室では、日本人看護師と共にネパール人医療スタッフが器械出し、外回り等の業務を行なった。本事業をシーア記念病院において実施するのは2006年以来4度目となるが、初回から日本チームと協働しているネパール人医療スタッフが多く、一部の医療機器や資材については日本語での指示に対応できるなど、言葉の壁を越えた円滑な手術の実施が可能となっていた。

病棟においては、日本人医療従事者は迅速で正確な術後ケア、入院患者をリラックスさせる方法を紹介すること等を通じ、ネパール人看護師の技能の向上に貢献した。一方、ネパール人看護師からはネパールの病院で通常行われているケアの手法について日本人医療従事者に紹介する等の交流が見られた。なお業務に際しては、ネパール人通訳を介したコミュニケーションは当然のこと、日本人看護師が積極的に英語やネパール語を使ってネパール人看護師と会話を試みる姿や、ネパール人看護師が医療用語をネパール語で紹介する等、医療のみならず言語等の相互の文化についても積極的に理解し合う姿勢が見られた。

総じて、日本人チームとネパール人チームの協働は非常に友好的かつ効率的に行われ、互いに協力して業務を遂行できたと評価できる。

2-3. ネパール人医師と日本人医師との技術交流を実施する

前年度に引き続き、首都カトマンズにある小児専門の公立病院であるカンチ小児病院において、出張手術を実施した。カンチ小児病院には、日本人形成外科医2名、麻酔科医1名、手術室看護師2名を派遣した。ネパール人の麻酔科医による全身管理の下、ネパール人小児外科医2名、看護師4名とともに、1名の尿道下裂患者に手術を行なった。この際、カンチ小児病院の小児救急センターにて処置が行われていた新生児患者の治療について、日本人麻酔科医がネパール人医療スタッフに対し懇切なアドバイスを行なった。

また、医療チーム帰国後、かねてより懇意にしていたネパール人小児外科医からの要請を受け、形成外科医2名、手術室看護師1名をカトマンズ市内のイサン・ナーシング・ホームに派遣し、2名(尿道下裂1名、斜顔面裂1名)の手術を行なった。

技術紹介として、事業初日の術前診察終了後、小児患者の病棟での救急救命方法について、日本人麻酔科医が日本・ネパール双方の看護師、及びシーア記念病院に所属する医師を対象としたレクチャーを行なった。

【評価】

カンチ小児病院並びにイサン・ナーシング・ホームにおいて手術を行なった3名の患者の術後ケア(入院を含む)は、両病院の管理下で適切に行なわれ、全員が無事に退院した。カンチ小児病院での出張手術ではネパール人小児外科医・看護師の6名が参加し、日本人形成外科医による手術を見学、及び器械出しなどのサポートを行なった。ただし両病院とも若手医師の参加は得られず、技術の未熟な医師に対する技術の移転、意見交換の場としては機能しなかった。

3-1. 日本人臨床工学技士が、故障・整備不良等により使用不可となっている医療機器をネパール人技士と協働して修理する

シーア記念病院では2006年から2009年までに3度、本事業を実施しており、その都度日本人の臨床工学技士が現地の技士に医療機器の点検・メンテナンス・修理方法を指導している。しかし、年間を通じ非常に多く

の患者に対応しているシーア記念病院では、日本の医療機関においては通常想定されないような頻度で酷使されている医療機器も多く、年に一度の本事業の際に改めて点検・整備が必要となる場合がほとんどである。

これに対処するため、日本人臨床工学技士がシーア記念病院の技士と協働し、機器の点検・動作確認・修理を行なった。対応した機器は、麻酔器、手術台、吸引器、電気メス、モニター、麻酔器圧力計などであった。シーア記念病院以外に、近隣の歯科診療所にも臨床工学技士を派遣し、デンタルケア用品の点検・修理、歯科治療用コンプレッサーと治療ユニットの修理を行なった。

【評価】

日本人臨床工学技士による医療機器の点検・修理は 2 週間の医療チーム派遣期間全体を通じて行われた。このうち、手術室の吸引器についてはオイル交換が適切に行なわれていなかったため、機器が熱を発生する危険性があったところ、日本人臨床工学技士の整備により安全に使用できるようになった。また、麻酔器の酸素がリークするという問題が起きた際も、パーツの交換やリーク部分のテープによる補修により、問題なく手術を行なうことができた。その他の作業も含め、いずれも放置すれば機器のさらなる磨耗や故障を引き起こしかねない問題であったことから、日本人臨床工学技士による活動は非常に有益かつ不可欠であったと評価できる。

3-2. 日本人臨床工学技士が、ネパール人技士に医療機器の整備方法の指導を行う

手術室のネパール人医療スタッフからの要望を受け、日本人臨床工学技士が電気メスの使用方法並びに点検・メンテナンス方法について、実践を交えて指導を行なった。なお今年度の事業においては、諸事情により過去数年にわたり参加している臨床工学技士の参加が得られなかったため、講義形式のレクチャーの実施は見送った。

【評価】

昨年度の本事業の際に整備したモニター等は本事業開始時点で正常に稼動しており、日本人臨床工学技士が行なった指導が定着し、確実に行われていたことが分かった。電気メスについても、過去の故障の原因が電圧の異なるプラグで電力を供給しようとしたことによる内部回路のショートであることを日本人臨床工学技士が突き止め、使用する際にはプラグの電圧を確認するようにアドバイスをする等、実践的な指導を行うことができた。

4-1. 事業報告書を作成して公開する

この事業報告書において、本事業における活動をすべて報告している。本事業報告書は、ADRA Japan のホームページに掲載され、誰でも入手することができる。

【評価】

本事業報告書には、患者の症例などの情報や派遣された医療従事者の内訳、事業実施に当たり協力頂いた企業の一覧、収支決算書など、事業報告として必要な情報は網羅された。

一方、ホームページを利用した一般への公開時期については、現地からの会計報告や国内管理費の最終決算が遅れたことが原因で収支決算書の完成が予定より大幅に遅れ、事業期間の終了から 3 ヶ月が経過してからとなってしまった。次年度以降、現地からの会計報告を早めに確認できるよう、現地の会計担当者より緊密な連絡取るなどの対応が必要と思われる。

4-2. 協賛企業、教育機関、支援団体への事業報告を実施する

2010 年度中には、支援団体や教育機関における事業報告会を実施することはできなかった。協賛企業については、3 月に 1 社を訪問し、手術を行なった患者数や症例などについて、先方の担当者に対して簡単な報告を行なうことができた。また、2011 年 4 月下旬に、本事業で派遣された形成外科医の所属する病院において事業報告会を実施する予定である。

【評価】

年度内に報告会を行なえなかった理由として、協賛企業や団体への連絡の遅れに加え、2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災への対応が重なり、報告の機を逸したことが挙げられる。後者については予期できないものであったが、事業報告が可能となる時期を目処に、協賛企業や団体へ報告会の開催を打診し、日程を調整することは可能であると思われる。次年度以降、計画的に報告の機会を設けるようにすべきである。

4-3. 事業の参加者が、開発途上国における保健衛生・医療支援活動について学ぶ機会を得る

医療チーム派遣期間中、夕食後の時間を利用して、滞在したホテルにおいて医療チーム参加者がレクチャーを行なった。アメリカの病院に所属する麻酔科医は、ブータンにおけるボランティアでの外科手術プロジェクトにおいて治療した症例や医療の実情について詳細にわたる講演を行なった。

また、参加者が相互に学ぶ環境を提供する活動として、現在大学院で看護師について研究している看護師から日本の看護師の労働環境に関する問題提起がなされ、それに基づいて各病院での取り組みについての意見交換が行なわれた。

【評価】

上記の医療チーム参加者によるレクチャーのほか、ADRA Japan スタッフによる ADRA の事業紹介も行われた。2 週間の事業期間中、計 4 回のレクチャーを実施することができ、実施回数としては適当であったと思われる。上記の看護師の労働環境に関する問題提起については、開発途上国における保健衛生・医療支援活動について学ぶという目的からは多少離れてはいるものの、本事業に所属や経歴の異なる様々な医療従事者が集まるがゆえに実施できたものであり、有意義な意見交換の場として機能したと考えられる。

また、医療チーム参加者を対象とした事後アンケートにおいては、開発途上国の問題について参加以前よりも興味が強まったとする人が全体の 4 割を超えており、医療分野以外にも貧困・子ども・教育・女性の問題等について、興味を覚えるようになったという回答が目立った。レクチャーに加え、本事業に参加すること自体が、開発途上国における保健衛生・医療支援活動を学ぶ良い機会となっていることが伺えた。

3. 予算／決算報告

本事業の実施に関する予算及び決算については、別途添付の収支報告書を参照のこと。

4. 事業における共同・協力団体一覧

(順不同)

共同・協力団体名	事業における共同・協力内容
ADRA Nepal	事前準備スタッフの受け入れ、会計管理
シーア記念病院	医療チーム受け入れ態勢の調整、患者受け入れ態勢の調整、患者への手術機会の通知、手術室・病棟の提供、医療従事者・事業実施に必要な人材の調達
ヒマラヤン ホライズン ホテル	宿泊費用の特別割引
東京衛生病院	医療コーディネーター(看護師)、薬剤師の派遣協力
浅草病院	看護師の派遣協力
宇治徳洲会病院	看護師の派遣協力
太田熱海病院	形成外科医の派遣協力
鎌倉皮膚科クリニック	形成外科医の派遣協力
京都府立医科大学付属病院	形成外科医の派遣協力
熊本リハビリテーション病院	形成外科医、看護師の派遣協力
国立成育医療研究センター	麻酔科医の派遣協力
埼玉医科大学国際医療センター	麻酔科医の派遣協力
昭和大学医学部付属病院	形成外科医の派遣協力
昭和大学歯科病院	麻酔科医の派遣協力
昭和大学横浜市北部病院	麻酔科医の派遣協力
聖マリア病院	形成外科医の派遣協力
総合南東北病院	形成外科医の派遣協力
千葉大学医学部付属病院	形成外科医の派遣協力
帝京大学ちば総合医療センター	麻酔科医、看護師の派遣協力
東京女子医科大学	臨床工学技士の派遣協力

医療法人財団 健貢会 東京病院	看護師の派遣協力
徳山医師会病院	看護師の派遣協力
旗の台レディースクリニック	看護師の派遣協力
福岡徳洲会病院	看護師の派遣協力
平成記念病院	看護師の派遣協力
村井おなかクリニック	栄養士の派遣協力
University of Pittsburgh Medical Center	麻酔科医の派遣協力
アイ・エム・アイ株式会社	手術用品の提供
五十嵐医科工業株式会社	手術用品の提供
オムロンコーリン株式会社	生体情報モニターの提供
株式会社イノメディックス	衛生材料の提供
株式会社大塚製薬工場	手術用品の提供
株式会社ジェイ・エム・エス	手術用品の提供
株式会社タグチ	手術用品の提供
株式会社八光	手術用品の提供
株式会社フジメディカル	衛生材料の提供
株式会社マークスマン	手術着の提供
ケアフュージョン・ジャパン 228 株式会社	手術用品の提供
ケイセイ医科工業株式会社	手術用品の提供
小林メディカル株式会社	手術用品の提供
コヴィディエン・ジャパン株式会社	衛生材料の提供
ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社	手術用品の提供
スミスメディカル・ジャパン株式会社	手術用品の提供
スリーエム ヘルスケア株式会社	手術用品の提供
泉工医科工業株式会社	手術用品の提供
テルモ株式会社	衛生材料の提供
日本ストライカー株式会社	手術用品の提供
白十字株式会社	衛生材料の提供
扶桑薬品工業株式会社	検査機器の提供
牧口ゴム株式会社	衛生材料の提供
マシモジャパン株式会社	手術用品の提供
丸石製薬株式会社	手術用品の提供
村中医療器株式会社	衛生材料の提供
利康商事株式会社	手術用品の提供
株式会社 西遊旅行	医療チーム渡航航空券の特別割引
タイ国際航空	医療品等運搬のため渡航者 1 人あたり 10Kg の超過荷物料金免除

5. 患者関連資料

(1) 患者一覧

添付の患者一覧を参照のこと。

(2) 居住地一覧(地図)

添付の患者マップを参照のこと。

(3) 術後アンケート結果

調査目的:手術を受けに来た経緯や、これまでの生活における口唇口蓋裂の影響を明らかにする。また、手術後の展望を調査し、本事業の意義を調査する。

調査対象:口唇口蓋裂患者・小耳症患者:43名

(口唇口蓋裂:42名、小耳症:1名)

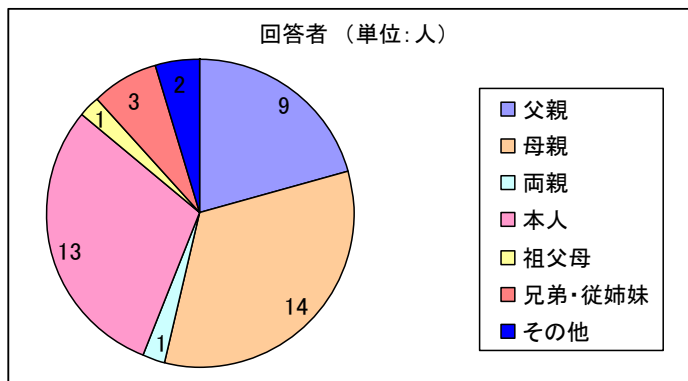
なお、手術実績に入っている副耳患者1名は、手術終了後に来院しなかったため、アンケート調査を行えなかった。

調査方法:手術後、患者もしくは家族に対し、用意した設問に沿って聞き取り方式にて調査した。

調査事項:手術歴の有無、口唇口蓋裂が原因となって家庭内及び社会生活において起きた問題の有無並びに詳細、ADRAの口唇口蓋裂事業を知った経緯、手術後に期待すること等

調査結果:以下の通り

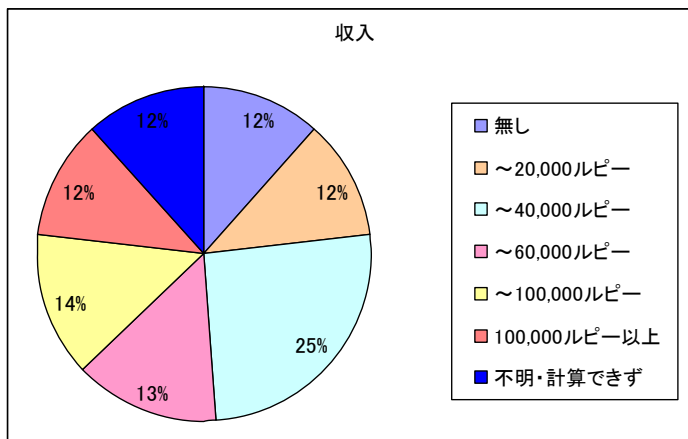
質問 1. 回答者と患者の関係



ネパールでは医療機関で医療を受けるにあたり、薬剤の購入、入院中の食事の調達、衣類の洗濯など、日本では医療機関が行なう種々のサービスを患者側が負担する。そのため、成人患者であっても、最低1人以上の親族が患者に付き添って来院するのが一般的である。

今回は過去数年に比べて患者の年齢層がやや高く、3割ほどは患者本人からの回答が得られた一方、両親による回答も半数を超えた。

質問 2. 回答者あるいは保護者の収入



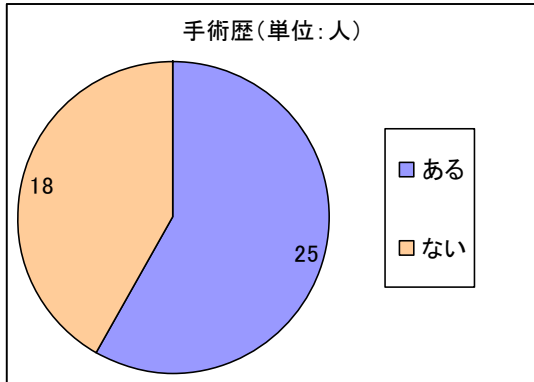
収入(年)	日本円換算	人数
無し	0円	5
~20,000ルピー	~23,000円	5
~40,000ルピー	~46,000円	11
~60,000ルピー	~69,000円	6
~100,000ルピー	~115,000円	6
100,000ルピー以上	115,000円以上	5
不明・計算できず	—	5

※ 1ルピーは 1.15 円 (2011 年 1 月 現在)

※ 日単位の収入を答えた回答者については、300 日に乗じた。また、月単位については 12 ヶ月に乗じた。実際は、農業で生計を立てる家庭においては一年を通じて農作物を販売しているわけではないため、収入に変動が生じる。

患者あるいは保護者の年収について尋ねたところ、最も回答数が多かったのは 20,000 ルピー以上 40,000 ルピー以下 (23,000 円以上 46,000 円以下) の範囲であった。ネパールの平均的な家庭の収入にほぼ匹敵しているが、留意しなければならないのはほぼ全ての回答者の生計を立てる手段が農業であり、したがって収入として計上された金額のうち、相当部分を市場で販売せずに家庭内で消費している点である。そうした金額を考慮すると、いずれの家庭も自由に使える現金収入はかなり限られていると想定される。

質問 3. 過去に口唇口蓋裂の手術を受けたことがありますか。

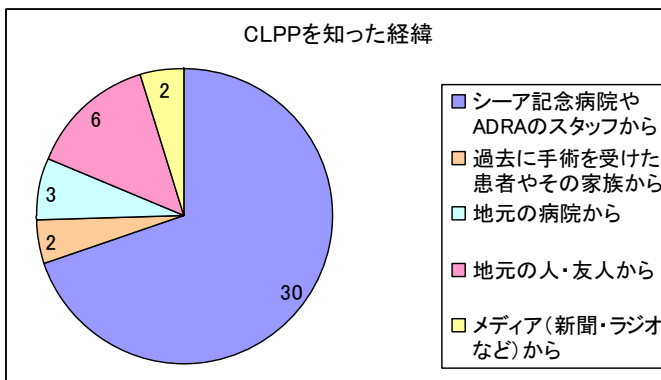


「受けたことがある」と回答した者は 25 名で、半数を超えた。このうち、16 名が過去の ADRA の CLPP で治療を受けていた。25 名の患者の再手術の理由として、以前は年齢や体重が足りずに口唇裂のみの手術であったため、今回は口蓋裂の手術を受けに来た、成長に伴い口蓋に穴や隙間が空いてしまったため、それを塞ぎに来た、以前手術を受けた際にネパール人医師の技術不足によりきれいにならなかったため、日本人に手術をしてもらいたくて来院した、などが挙げられた。

「受けたことがない」と回答した者の内訳を見ると、「手術で治ると知らなかった」と回答した患者がほとんどであり、いまだ

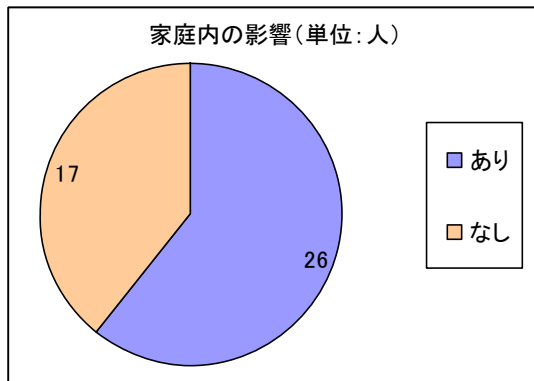
に情報不足のために手術の機会を逃す患者が多いことが浮き彫りとなった。

質問 4. ADRA の口唇口蓋裂事業をどのようにして知りましたか。



約 7 割の患者がシーア記念病院のスタッフ、あるいは ADRA スタッフから手術を受けられることを聞き、来院していた。これは、先の質問 3 において過去に CLPP による手術を受けたことがあるという患者が多くいたことから分かるように、シーア記念病院及び ADRA のスタッフが連絡を取りやすい状況であったためと考えられる。一方、過去に手術を受けたことのある患者やその家族から情報を得たという患者は 2 名に留まった。

質問 5. 今まで、家族内において口唇口蓋裂が原因で何か問題が起きましたか。

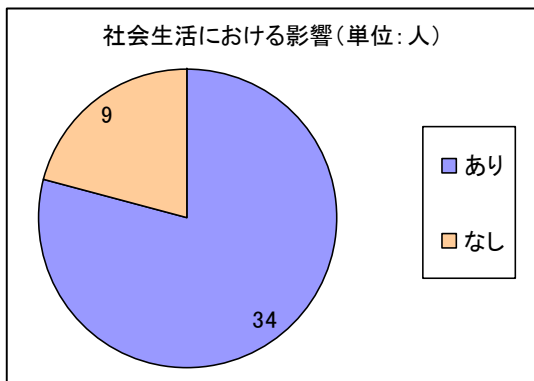


問題があったという回答が、無かったという回答を上回った。問題の多くは、親類や結婚相手の両親等から受けた、素行や前世が悪かった等の非難であった。また、幼い頃に母親が他の兄弟を連れて出て行ってしまった、父親が患者を置いて家を出てしまった等の回答も見られた。

一方、問題がなかったという回答をした者からは、都会に住んでいたために口唇口蓋裂が先天性の形態異常であるとの認識が周囲にあった、教育を受けている家庭だったので手術を受ければ治ると知っていた、等の回答が見られ、口唇口蓋裂に関する情報の有無によって家庭に及ぼす影響に大きな

違いが生まれていることが明らかになった。

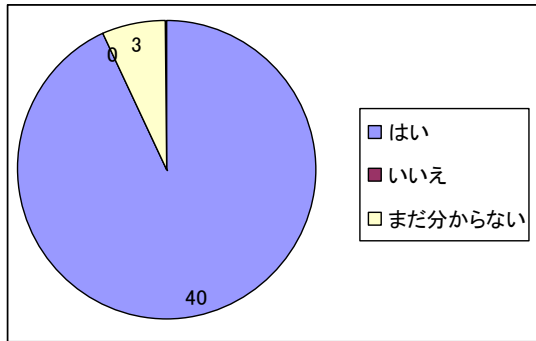
質問 6. 今まで、社会生活において口唇口蓋裂が原因で何か問題が起きましたか。



問題があったと回答した者が 43 人中 34 人で、8 割近くに及んだ。その多くは、近隣住民からの差別的な言動や学校でのいじめであり、中には中傷を苦にして学校を退学したという患者もいた。

問題がないとする家族も、その理由として「患者がまだ幼く、周囲の目に触れていないために問題が起きていない」というものがあり、気づかれたらどうなるかは分からないという不安と、人目に触れないうちに手術を受けて口唇口蓋裂であったことに気づかれないようにしたいという期待を感じることができた。

質問 7. 口唇口蓋裂の手術を受けたことで、今後の生活が変わると思いますか。



例年、ほとんどの患者が手術後の生活は良くなると回答しており、今回も同様の傾向が見られた。一方、家庭の経済状況が苦しいため、手術を受けて口唇裂が治っても生活そのものが向上するかどうかは分からないという意見や、手術を受けたばかりなので影響を想像することができないといった意見も聞かれた。

手術後に期待することとして、「学校に行けるようになる」「勉強に専念できるようになる」「普通の人と同じように喋れるようになる」「いじめられずに生活できるようになる」「コレ(ネパール

語で「口裂け」という意味)ではなく、名前でも呼んでもらえるようになる」等の回答が見られ、将来の展望が開けたことを喜ぶ声が多く聞かれた。また、今回の経験から、勉強して大きくなったら形成外科医になりたいと話してくれた患者もいた。回答者の多くは、手術を受けることで「他人と同じように、普通の生活を送れるようになる」ことを望んでいた。

今回の手術が患者自身や家族にとって大きな転換点となることを期待するとともに、周辺社会と共存し、口唇口蓋裂患者に対する偏見や差別から解放されることを願っていることが伺える結果となった。

以上

添付資料

収支報告書

2010年4月1日 - 2011年3月31日

特定非営利活動法人 ADRA Japan

第15回ネパール口唇口蓋裂医療チーム派遣プロジェクト

単位 (円)

<収入の部>

科目	金額	予算	達成率
1 プロジェクト指定寄付金	10,658,252	7,885,500	135%
2 物品提供	4,810,326	1,000,000	481%
3 助成金(*)	2,079,000	3,929,000	53%
収入合計(A)	17,547,578	12,814,500	137%

(*) 社団法人全日本冠婚葬祭互助協会社会貢献基金
積水ハウス株式会社、積水ハウスマッチングプログラムの会

<支出の部>

科目	金額	予算	支出割合
1 事業費			
医療チーム渡航費	5,642,534	5,223,388	108%
医療チーム宿泊費	639,873	564,597	113%
医療チーム食費	384,917	483,008	80%
医療チーム交通費	106,728	148,800	72%
医療チーム活動費	101,145	302,200	33%
医療資材・消耗品(現地調達)	0	0	0%
医療資材・消耗品(国内調達)	5,594,000	915,000	611%
現地スタッフ人件費	327,768	720,662	45%
患者関連費	1,396,195	1,797,580	78%
医療従事者登録費	124,176	117,329	106%
現地管理費	199,877	240,436	83%
2 管理費			
国内旅費交通費	87,242	50,000	174%
国内通信費	28,186	50,000	56%
消耗品費	9,379	15,000	63%
印刷費	83,515	15,000	557%
事務用品費	20,709	20,000	104%
会議費	12,969	10,000	130%
支払手数料	5,220	1,500	348%
人件費	2,730,332	2,000,000	137%
予備費	52,813	40,000	132%
報告会関連費	0	100,000	0%
支出合計(B)	17,547,578	12,814,500	137%

<収支>

本会計収支差額(C)	(A)-(B)	0
------------	---------	---

添付書類 患者一覧



CLP Surgery , Japanese Volunteers team November 2010 in partnership with Scheer memorial Hospital , Banepa

SN	Name	Age	Sex	Address	Diagnosis	Date
1	Subarna Thapa	18 yrs	M	Kavre	Alveolur fisutula + palatal fistula	11/30
2	Ranjana Lama	3 yrs	F	Kavre	Lt. Incomplete CL	11/23
3	Phungma Subba	14 months	F	Kavre	Bil. CLAP	11/25
4	Pawan Neupane	11 months	M	Kathmandu	Bil. CLAP	Cancel
5	Bipat Lal Chaudhari	30 yrs	M	Sunsari	Lt. CL	11/26
6	Pooja Kumari Shah	12 yrs	F	Saptari	Cleft Palate	11/22
7	Abhijit Mandal	5 yrs	M	Saptari	Bil. CLAP, Palatal fistula	11/30
8	Mukesh Ram	5 yrs	M	Sarlahi	Lt. CLAP	11/25
9	Asha Kumari Shah	5 yrs	F	Saptari	SMCP with Palatal fistula	11/23
10	Radhika Pasman	1 yrs	F	Siraha	Lt. Incom. CL + CP	Cancel
11	Jipsi Pasman	2.5 yrs	F	Siraha	Bil. CLAP	11/24
12	Bindeshwor Pasman	7 yrs	M	Saptari		Cancel
13	Ramesh Lama	30 yrs	M	Darchula		Cancel
14	Kunti Lama	25 yrs	F	Siraha	Lt. Complete CLA	11/24
15	Kaushila Bamjam	11 yrs	F	Darchula	Lt. CLAP	11/29
16	Lila Subedi	18 yrs	F	Udayapur	Cleft Palate	11/24
17	Sharmila Karki	12 yrs	F	Siraha	Cleft Palate	11/22
18	Sita Karki	14 yrs	F	Sireaha	Cleft Palate	11/23
19	Kul Bdr Khatri	5 yrs	M	Udayapur	Bil. CLAP	11/28
20	Sabitri Ram	10 yrs	F	Saptari	SMCP	11/24
21	Abhishek Pasman	1 yrs	M	Siraha	Lt. Incomplete CL	11/25
22	Prem Kumar Chaudhari	3 yrs	M	Udayapur	Palatal fistula	11/24
23	Hari Krishna Chaudhary	15 yrs	M	Saptari	Lt. CLAP	11/23
24	Parmeshwori Sada	30 yrs	F	Saptari	Lt. Incomplete CL	11/25
25	Sita Mahato	3 yrs	F	Siraha	Lt. CLAP	Cancel
26	Indira Dahal	27 yrs	F	Kathmandu	Bil. CLAP	11/29
27	Shiva Raj Khadka	22 yrs	M	Ramechhap	Bil. CLAP	11/24
28	Yek Raj Regmi	21 yrs	M	Kailali	Hypernasality + Nasal deformity	11/23
29	Rati Ram Chaudhary	22 yrs	M	Kailali	Bil. CLAP, SMCP	11/28
30	Puspa Chaudhary	7 yrs	M	Kailali	Bil. CLAP	12/1
31	Lauty Kumari Chaudhary	14 yrs	F	Kailali		Cancel
32	Sita Devi Chaudhary	25 yrs	F	Kailali	Rt. CLAP	11/25
33	Govinda Chaudhary	9 months	M	Kailali	Lt. CLAP	Cancel
34	Subash Chaudhary	1.5 yrs	M	Kailali	Bil. CLP, nasal deformity	Cancel
35	Puspa Chaudhary	11 months	F	Kailali	Lt. Incomplete CLA	11/26
36	Suroj Chaudhary	9 yrs	M	Kailali	Lt. CLAP	12/1
37	Suk Man Budha	19 yrs	M	Bardiya	Lt. CLA	11/30
38	Pramila Dhukhwa	14 yrs	F	Bhaktapur	Ear Conginental	11/29
39	Aman Kumar Mandal	1 yrs	M	Dhanusha	Lt. CLAP	12/1
40	Raju Dhungana	15 yrs	M	Kavre	Bil. CLAP	11/28
41	Sushant Shah	13 yrs	F	Kavre	Bil. CLAP	11/25
42	Lucky Lama	3 yrs	M	Nuwakot	Rt. CLAP	11/30
43	Karina Chaudhari	6 yrs	F	Rautahat	Cleft Palate	11/29
44	Ishan Ghimire	3 yrs	M	Okhaldhunga	Lt. CLAP	12/1
45	Rabin Chaudhari	3 yrs	M	Rautahat	Bil. CLAP	11/29
46	Sukre Tamang	7 yrs	M	Kavre	Lt. CLAP	Cancel
47	Janak Shrestha	12 yrs	M	Manang	Rt. CLAP	11/30
48	Shiva Shrestha	16 yrs	M	Dolakha	Palato Plasty	11/29
49	Bikash Basnet	16 yrs	M	Kavre	Big hole with bil. cleft lip & palate	11/24
50	Milan Kuinkel	17 yrs	M	Sarlahi	Hole at Palato Plasty	11/26
51	Nirajan Shrestha	29 yrs	M	Kathmandu	earlobe cleft	11/28
52	Khagendra Kumar Chaudhary	21 yrs	M	Sindhuli	Lip & nose Plasty	12/2
53	Srijana Dotel	8 yrs	F	Kavre	Palato Plasty	11/29

